

## 週日の説教

金 大烈 神父 2008年12月13日(土)

### 《私たちの使命を意識しましょう》

洗礼者ヨハネの名前を聞いて思い浮かぶ、同じ役割を果たした人物は、エリヤです。

今日の福音(マタイ 17・10 - 13)では、弟子達がイエス様に「律法学者やファリサイ派の人々は、必ずエリヤが現れると話しているのですが、それはどうしてでしょうか。」と質問をします。するとイエス様は、「エリヤは既に来ている。」と答えます。イエス様がおっしゃったのは、洗礼者ヨハネのことです。

エリヤについてはご存知ですね。エリヤは紀元前9世紀の人です。その当時、イスラエルの王はアハブという人でした。アハブ王は、カナン地方の宗教であったバアルという偶像崇拜に陥っていました。そして、エリヤとアハブはカルメル山の山に登り、どちらの信じる神が本当の神であるかをかけて戦います。(祭壇にいけにえを置き、それぞれの神に祈り、いけにえに火がついたほうを神としよう、ということになります)最初にバアルの祭司達が祈りますが、祭壇の上のいけにえには火はつきませんでした。しかしエリヤが一言祈るといけにえに火がつき、その煙が天に昇った、という物語ですね。そしてエリヤは、シナイで燃える馬車に乗って昇天します。死なずに昇天したので、終末の前には必ずエリヤが現れるとイスラエルの人々は固く信じていました。

それを律法学者達やファリサイ派の人々はいつも教えていたのです。しかし、イエス様の答えは、エリヤは実際に現れたけれど人々が殺してしまった、という事でした。それは洗礼者ヨハネのことだったのです。

洗礼者ヨハネの生き方を見ると、激しくて荒っぽく、何の楽しみも許されない人生でした。死に方も本当に残酷で、人間の欲によって首をはねられてしまいます。ヨハネがいつも叫んでいたのは、「私はメシアのために道を整えるために来た。」ということでした。

そのようなヨハネのことを考えながら歴史を見てみると、偉大な人物の前には必ずそれを支え、助け、サポートする人物がいました。イエス様という救い主が私たちの前に現れる前にその役割を果たしたのがヨハネでした。

来年から太田教会では新しい教会役員の仕事が始まります。その役員の仕事のためには、皆様のサポートが必要です。司祭のためにも皆様の助けや祈りが必要です。

結局、今日の福音のテーマは、「私たちが持っている使命感、呼びかけについて意識しなければならない」ということではないかと思いました。

イエス様が使命を果たすためには、洗礼者ヨハネが必要であったように、私たちにもイエス様の為に必ず何かの役割があるのを意識すべきだと思います。

もう一つ別の話題になりますが、最近、不景気によって生活に困っている人々がたくさんいます。この太田教会もそうですし、伊勢崎教会でも同じです。このような難しい時にこそ、何よりも心をあわせて神様からいただいた命が私たちのなまけた心によって奪われることがないように祈らなければならないと思っています。

ありがとうございました。